

問一

【出題意図】目にすることは多いが自ら書くことは少なそうな漢字熟語について、正確に読み書きできるかを問うた。

【採点講評】各問につき完答にのみ得点を与えた。全問正解は意外に少なかった。とくに、イ「もろて」（「もろで」も可）、ウ「疾駆」（「疾」のやまいだれの中は「失」ではなく「矢」）の正解率が低かった。「周到」の「到」を「倒」と誤る答案も散見された。漢字の読み書きは読解、考察の基礎でありしっかり身につけておきたい。

問二

【出題意図】前後の文章とサウジアラビアに関する常識的知識から筆者の表現意図を正確に読み取ることができると問うた。

【採点講評】後の段落のことを記すなど、的を外した答案が数多く見られ、正解の答案は意外に少なかった。それは、「その真意」の「その」という文脈指示の語が指示する箇所を的確に押さえていないことに起因する。来日したサウジアラビアのファイサル国王が「胸をはって語った」という点にも留意する必要がある。

問三

【出題意図】古典文法の基礎的知識である助動詞の活用形と意味についてきちんと習得しているか問うた。

【採点講評】おおむねよくできていたが、波線部前半の「をして」の「し」、「雨ふりに」の「に」を助動詞と見誤り、解答に含めたものも目立った。字面で当てずっぽうに解答するのではなく、「雨降りの時にお客たちに雨具や傘を用いなくさせる（＝使う必要がないようにする）」という本文の意味を文脈から読み取りながら文法解釈をしてほしい。

問四

【出題意図】問題文の主要なモチーフについてその内容を100字以内にまとめさせることにより、読解力と文章表現力を見ようとした。

【採点講評】ここで問われている「雨の文化」とは、軒や庇の下という半公共的な場における出会い等を指しているが、問題文前半の農業が雨に依存していることについてまで書いている答案が少なくなかった。破線部直後の「いまや窒息させられてしまった」という文に注意してほしかった。

問五

【出題意図】問題文の論点を正確に理解して自身でも同様の具体的な事例を紹介できるか、また自身の考え方を論理的にわかりやすく、できれば印象的に記述できているかを見ようとした。

【採点講評】（複数意見を示す）

- ・江戸以前から明治以後にかけて生じた文化的差異の具体的な事例について、事実を誤認しているものや大雑把に「昔と今」という二分で論じているものが少なからず目につき、減点した。
- ・東西の文化的違いをそれぞれ紹介するにとどまり、考察を深めずに「それぞれ良さがある」と結論づけただけの答案は高く評価しなかった。
- ・最初に本文の要旨をまとめるために紙幅を費やしている答案が散見された。今回の設問文ではそれは求めている。設問文をよく読むこと。
- ・「水の東西」などの教科書教材で学習したことを安易に取り上げている答案が散見された。教科書で学んだことを活用することは悪いことではないが、浅薄な理解にとどまっているものについては低く評

価せざるを得なかった。

- ・例年に比べ、文字を丁寧に書いている答案が多く誤字も少なかった。
- ・小論文の書き方として同内容の繰り返しは避けてほしい。また、導入と結論が呼応しておらず論理が見えにくい文章があった。
- ・根拠を提示せずに感想や意見だけを述べた答案が非常に多かった。